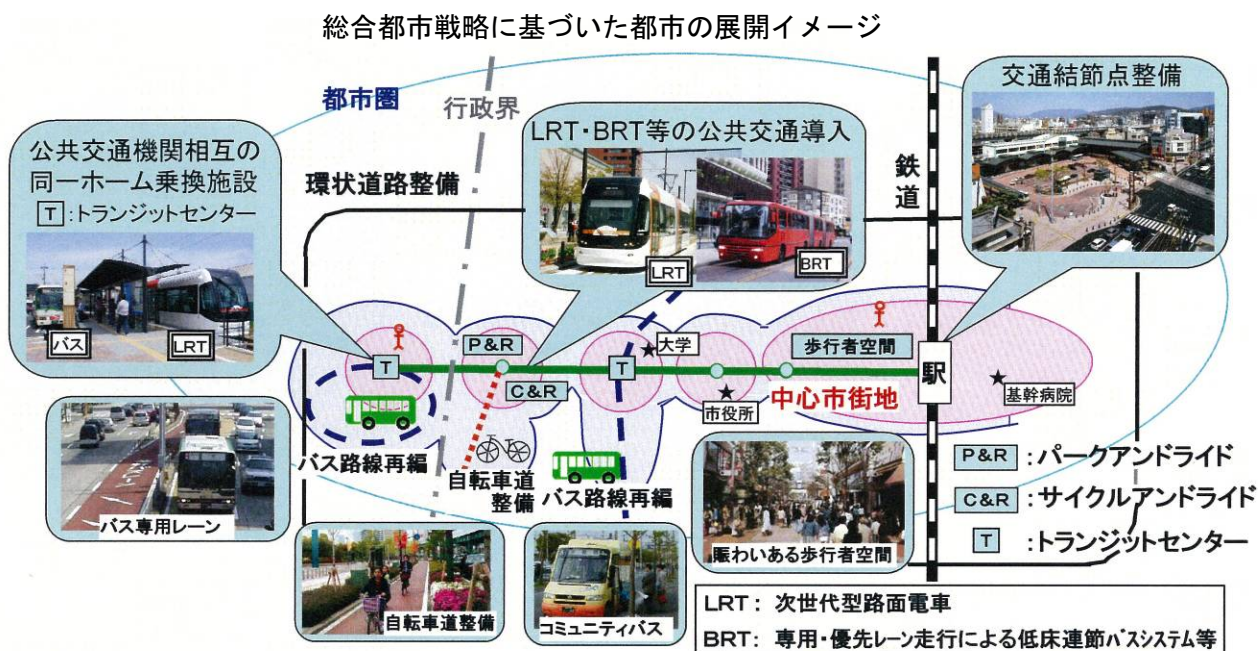


提言 3 望まれる市街地骨格とこれに向けた改善 ～理想的な都市像と実現化方策を模索する

- ・ 駅周辺まちづくりについては、「現状の進め方で持続的で心地よい生活基盤づくりが本当に形成できるか」といった問題意識から、「望まれる市街地の骨格」を提示し、その実現にむけ現実とのすり合わせをどのように考えるかについて検討が必要
- ・ 将来に向けた理想的な都市像とその実現化方策については、今後とも大いに議論され、継続的に模索されることが必要

(1) 望まれる市街地の実現化方策

- ・ 駅から枝上に配置される LRT や BRT などによる公共交通の沿線を軸として、都市サービスや土地利用を展開し、いわゆる TOD の手法に基づいたスマートグロースもしくはスマートシュリンクを長期的な目標として実施していく。
- ・ LRT や BRT などの公共交通の駅または停留所周辺は、一回り小規模な「駅・まち」空間として考え、P&R や C&R の乗り継ぎ施設、地区循環バスとの乗り継ぎが便利なトランジットセンターなどが配置される。
- ・ 市街地の街路は歩行者を中心とし、ユニバーサルデザインに基づいた空間設計がなされ、高齢者、障害者、幼少者などが、自家用車に頼らなくても安心して暮らせる街とする。

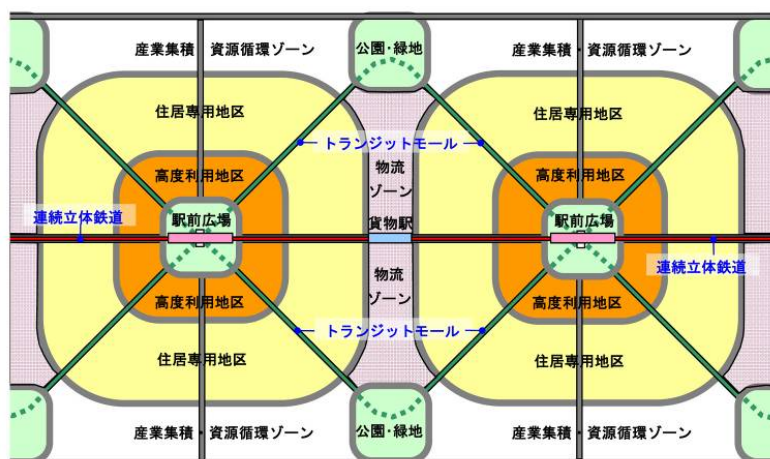


(出典:「エコ・コンパクトシティの実現に向けて」国土交通省 都市・地域整備局 パンフレット H19.8)

(2) 望まれる市街地の骨格イメージ例

- ・ 駅周辺の土地利用は、コンパクトなまちを実現するため、駅を基点として一定の圏内に高度に利用するとともに、公共的な都市サービスや医療・福祉機能を集中させる地区を設定する。
- ・ この高度利用地区の外縁には住居地区を、さらにその外には地域の自立性を促すための町工場などの産業孵化施設や資源循環施設をゾーニングすることがイメージされる。
- ・ 高齢化社会に向けた都市のコンパクト化には、空洞化した中心市街地への、郊外からの移転促進策など、土地利用の目標像実現を支援する住宅政策的な手当も必要となろう。

市街地骨格のプロトタイプイメージ



(3) 都市システムの再構築（循環型社会の構築）

- ・ 都心のヒートアイランド現象などへの対応としては、環境的負荷の少ない都市システムを構築する必要がある。持続発展可能な都市構築には①自然循環を元に戻すこと、②限りある資源を有効に使うこと、③都市システムを自然循環の枠内で再構築するサステナブルな循環型社会の実現が不可欠である。

循環システムと整備項目群の例

	整備項目群	整備内容など
自然 循環	① 低環境負荷 ② 海、川、土壌、空気の浄化 ③ 生態系の修復	・ ヒートアイランド対策、省エネルギー化など ・ ノンポイント汚染源対策、緑化推進、土壌浄化など ・ 緑のネットワーク、ビオトープ形成など
資源 循環	① エネルギー系 ② ライフライン系 ③ 廃棄物処理系	・ 石油、石炭、水力、原子力、風力、太陽光ほか新エネルギー ・ 上水道、中水道、下水道、電気、ガス、天然資源、食料原料 ・ 生活ゴミ・産業廃材などの輸送・処分、再利用化施設
都市 シ ス テ ム	【移動】 ①交通（人の移動） ②物流（物の移動） ③通信（情報の移動） 【拠点】 ①居住 ②経済活動 ③交流（人、時代、自然） 【防災】 ①地震、治水対策	・ 鉄道（幹線、在来線、地下鉄、新交通、LRT等）、自動車（バス、タクシー、自家用車）、航空、船、自転車、歩行など ・ 交通機関とともに歩行空間のユニバーサルデザイン化 ・ 航空、鉄道貨物、船、トラックなど ・ 通信ケーブル、GPS、ICT関連など ・ 集合住宅、戸建住宅 ・ 事務所、商業施設、工場、業務拠点施設全般 ・ 人（コミュニティ、福祉、教育施設など）、時代（文化、伝統施設など）、自然（公園、緑地、農地など） ・ 防災拠点、避難路、予備経路、貯水・貯蔵施設、調節池など